

インクル



発行：北海道七飯養護学校 七飯町立七飯中学校

共同学習『翼をください（手話歌）』

～七中学校祭での「共同学習」～

10月3日(金)七中学校祭当日、今年度2回目の共同学習が、七飯町文化センター・パイオニアホールで行われました。

両校2年生が普段の音楽授業で学習を積み重ねてきた手話歌『翼をください』の合唱をしました。七中ではピア・サポート活動の中で実行委員のリードのもと、全校生徒が手話歌に取り組んだ場面もありました。2年生がクロームブックを使ってリードし、動画を見ながら手話歌の練習を真剣に、そして楽しく行いました。また、共同学習として技能や表現力などを両校の到達目標に個別最適な形で取り入れ、交流の側面以上に学習として成立するような授業を組み立ててきました。手話歌は、2年生のみならず、会場全体が一体となった素晴らしい、感動的なものになりました。

なお、この共同学習の様子は、北海道通信と函館新聞で紹介されました。

〈七中生の感想や評価〉

- 手話歌をやるとき、途中でわからなくなってしまったが、最後までやり切ることができました。
次もわからなくなてもあきらめずに最後まで取り組みたいと思います。
- 手話歌の時に、動きが少し小さくなってしまったので、来年に手話歌があつたらもっと大きな動きで手話をする。
- 手話歌を通して、七飯養護学校の生徒と触れ合ったのは、貴重な体験でした。
- 障害を持っている子でも手話歌などを通して通じ合えるということに気づいた。
- 言葉の表現の幅が広がったり、ダンスみたいに楽しめるから素敵だなと思いました。
- 養護学校の生徒たちが喜んでくれてすごく嬉しかった。みんなが平等で、みんなが楽しむのがすごいと思った。
- 手話は覚えるだけでも大変なのに、これを会話の中でスムーズに使うのには相当な努力が必要なこと、音として話せなくても行動として手話を通して目で会話することができること、会話には様々な手段があること。

〈七養生の感想〉

- いっしょにがんばったね。できました。ななえちゅうがっこう、がんばりました。(2年男子より)
- つばさをください、たのしかったです。またみんなとあいたいです。いっしょにできて、ありがとうございます。(2年女子より)
- つばさをくださいの「ねがい」と「つばさ」をがんばりました。こうりゅうがでてよかったです。(2年男子より)

第5回連携協議会が開催されました

10月24日(金)七飯養護学校にて今年度2回目の連携協議会が開催されました(通算第5回)。今回はリモートで、道教委 高石主任指導主事、道教育大函館校 細谷教授、道立特別支援教育センター 岡森主査、渡島教育局 早坂指導主事が参加されました。

〈山内七飯養護学校長より開会の挨拶〉

『本事業は、9月末で折り返し、残り18か月となった。七中学校祭での生徒会長の挨拶「多様化が求められる社会で、ここにいる全ての人を認めて生きていける社会への理解を深めて、」に感動した。交流が深まると、特別ではなく当たり前が増える、いわゆる心のバリアフリーが進む。これまで課題だった共同学習での教科の側面について、今回は音楽科で単元を計画し追求できた。ビデオ交流により、単に障がい理解に留まらず、知識・技能を相手に伝える表現力や思考力を高め、互いの生徒が学びに向かう力に繋がった。今後は、可能な限り、ともに学ぶ方向性のもと、単元を見通した計画、ICTの活用も進めていくことが望まれる。』

〈各グループからの説明(裏面に)〉



□企画推進グループプロ

- ◎これまでの経過
・第1回教員合同研修(杉本教授より示唆)
- ・インクル実行委員会(第6回まで終了)
- ・七飯中学校2年生と七飯養護学校中学部2年生との共同学習(手話歌「翼をください」等)
- ◎今後の予定
・第2回教員合同研修(計画準備中)
- ・七中1年生と七養中学部1年生との交流(リモート交流、アダプテッド・スポーツでの交流を企画)
- ・七中2年生と七養中学部2年生との交流(12月5日、縁日案などを企画中)
- ・七中2年生と七養中学部2年生との共同学習(美術「けっちゃん作り」を企画中)
- ・令和7年度成果発表会:令和8年1月19日(金)、七飯養護学校体育館
- ・第6回連携協議会:令和8年2月20日(金)

□交流及び授業グループプロ

- ◎グループ目標と活動
・目標: 交流および共同学習を発展させ、柔軟で新しい授業のあり方を企画し、教科で連携する。
- ◎交流事業の実施
12月5日: 七中2年と七養2年が総合の時間で交流
1年生交流: オンライン紹介、アダプテッド・スポーツ交流を検討中
3年生交流: 総合の時間で講演会とワークショップを検討中
- ◎授業内での連携
1. インクルーシブサッカー(保健体育)
七飯養護学校の生徒12名が七飯中の体育大会に参加した。
感想: 「一緒に参加してゴールすることが楽しかった」「ルールがちゃんとしていて誰でも楽しくできる」「ペアの人が自然とフォローしていた」等～学習指導要領の目標(操作しやすいパスを送る、実現可能な課題を設定・調整する姿勢を育てる)に繋がった。また、ゴールまでの距離を5m～45mに設定するなど、生徒の実態に応じた調整をしたこともよかったです。
2. 手話歌「翼をください」(音楽科)
成果: 1・3年生がピアサポート活動で手話歌の練習を実施できた。
七中の指導計画を基に七養が授業を組み立て、指導計画に動画撮影・共有を位置づけた。～授業の様子をビデオで撮影し、七中の生徒がアドバイスを作成し、共有できた。

- ・反省点: 音楽科としての評価(表現力など)がステージ発表(本番)では難しく、ビデオを見た後の自己評価など、授業としての広がりがまだ不足している。

- ・今後の課題: カリキュラムマネジメントとして、つけさせたい力を示し、時期と時数を設定するなど、計画の明確化が必要である。この反省を生かし、次回の美術(けっちゃん作り)では、両校で指導計画やラバースを共有し、生徒に身につけさせたい力を明確にして取り組む。

◎授業に携わった教員の感想と課題(七養中学部2年主任 吉田先生)

- ・成果: ①音楽科のねらいに迫る指導ができ、生徒の表現力(身体の動かし方、歌声のスケール)が明らかに大きくなり、明確な評価ができた。②ビデオ交流などに対し、生徒たちが「外部からの突然のアクション」ではなく「いつも交流してきた人たちからのアクション」として自然に受け入れ、交流が身近なものになった。

これまでの積み重ねが土台になったと生徒から学んだことが嬉しかった。

- ・今後の課題: ①連携の整理が必要(事前指導など、評価指導以外のエネルギーと時間を使うため、他の学習時間の確保が課題)。②今までの「13人が同じことをする」形から、個別最適な「1人にとってのインクルーシブ」を目指し、多様な交流方法を追求したい。

□体制構築グループプロ

- ◎研修会・支援事業の実施
1. 第1回教員合同研修会(8月27日)
北海道教育大学 杉本教授による講演「インクルーシブ教育の視点を踏まえた体制構築」について～七中22名、七養82名、地域教員20名など計124名が参加。

- 2. 第2回合同講演・研修会(11月19日予定)
札幌あいの里高等支援学校 今井章文校長を招き、交流や共同学習の充実に向けた体制構築について講演予定。

3. 本校校内研修会

- 6月25日: 交流・共同学習についての講話とグループワークを実施。

◎互見授業(相互支援授業)

- 七養から七小・七中へ実施～参加教員から「少人数のグループを複数作り、生徒同士の関わりが見られた」など、協働的な学びの実際が見られるることにメリットを感じている。参加者増加に向けた改善策(研修の一環として組み込むなど)を検討し、次年度に繋げる予定。

- ◎ケース会議: 七中で今週検討予定。

◎コーディネーター訪問

- 7月より週1回、七養コーディネーターが七中を訪問(主に支援学級)～継続的な関わりにより、支援学級の生徒の素直な様子などに触れ、成果を感じている。

◎七飯町内の各学校とのケース会議

- 前期で9校、全24回実施(昨年度の倍増ペース)。今後も要望に応じて継続する。

◎人材バンク

- 両校教職員の協力を得て作成。名前・顔・教科・経験・趣味などをまとめた～事前に確認することでスムーズな関わりが可能になる。今後の発展的な利用も検討したい。

説明に対する質問ならびに助言等

協議へ授業へ

● 高石主任指導主事

- ・昨年度の取り組みをベースに、今年は多様な場面でともに学ぶ場が設定されており、フレキシブルな取り組みが実現した(特に手話歌)。
- ・「声が大きくなった」などは、学習指導要領に示される目標に迫っている。
- ・事業終了に向けて、「学びに向かう力・人間性等」が共同学習の中でどれだけ迫れるか、今後の活動(けっちゃん作りなど)でも検証してほしい。

● 細谷教授

- ・七中生徒が書いた感想文から書かれてある単語の変容や関連を学生と分析し、その結果を教育活動に還元したい。

● 細谷教授

- ・今後は、中学校の教科と特別支援学校の専門性を相互に活かし、授業づくりなどで連携(乗り入れ)できるよう活用に期待。
- ・「両校の財産(教員)を相互の教育活動に生かす」ことが、文科省が目指すインクルーシブに繋がる。

● 高石主任指導主事

- ・文科省の取り組み紹介で本事業がトップに紹介された。
- ・目的は、障害のある子とない子がともに学ぶ機会の確保と、両校の専門性を生かした一的な運営であり、人材バンクの話は後者の実現に向けて重要であり、乗り入れなどを通じた教育力の向上に期待する。



〈細川七飯中学校長より閉会の挨拶〉

体育大会と学校祭を通じて両校生徒が心を通わせる場面が印象的で、七養生徒が青いTシャツを着て七中生徒に自然に溶け込む姿に「当たり前になる」ことを実感した。教職員の意識も変容し、研修意欲が高まるなどアップデートが進んでいる。また、七養のコーディネーターが毎週訪問してくれることに感謝し、大変心強く思っている。

今後も等身大の取組を増やし、ウェルビーイングを実現し、事業の成果を力強く発信していきたい。

群馬県教育委員会 学校視察

北海道と同様に本事業を推進している群馬県から『事業先進推進地域』を視察する目的で七飯養護学校に来校されました。七飯養護学校 山内校長から令和7年度の本事業の推進状況と今後の事業見通し等についてスライドや資料等を使って説明がありました。途中で七飯養護学校中学部の体育授業を見学された後、協議に入りました。協議の間に七飯養護学校高等部の生徒により七飯町産のリンゴが振る舞われ、七飯の味も味わっていただくことができました。群馬県では、小学校と養護学校との間で事業推進を行っているとのことで、交流や共同学習の進捗状況などの情報交流がなされました。



群馬県教育委員会の方々との懇談